

## 北海道内 溶連菌感染症増加中

先日、新聞で取り上げられた北海道内の溶連菌感染症急増のニュース。当院は小児科がないため、あまりなじみがないかもしれませんが小さいお子さんがいる職員は、ご家族が罹患することもあるでしょう。今回は、急増している溶連菌感染症について取り上げます。

### 溶連菌感染症とは

レンサ球菌には4つの代表的なグループに分かれますが、最近流行しているレンサ球菌感染症は主に咽頭炎や扁桃炎などを引き起こす「A群溶血性レンサ球菌」です。  
レンサ球菌と呼ばれる由来は鎖のようにつながっていることから命名されました。今回はのどの症状が現れるA群溶血性レンサ球菌について説明します。

### 溶連菌感染症の特徴

A群溶結性レンサ球菌（溶連菌）は急性感染症と続発症があります。

#### 急性感染症

- 気道感染症：咽頭炎・扁桃炎 学童に多い
- 皮膚感染症：膿痂疹・丹毒・蜂窩織炎  
壊死性筋膜炎・劇症型A群溶結性レンサ球菌感染症（この2疾患はまれだが重症化することがある）

潜伏期間：2～5日：気道感染症に限る。

皮膚感染症の潜伏期間は不明

症状（のど）発熱、のどの痛み・発赤・白苔・イチゴ舌・リンパ節腫脹

（皮膚）発熱、倦怠感、急激に進む局所の発赤・痛み、水疱、下痢。嘔吐など

感染経路：気道感染症は飛沫・接触感染、皮膚感染症はわずかな皮膚損傷部位から侵入するが経路は不明

### 溶連菌感染症の続発症や猩紅熱

溶連菌による続発症とは、感染してから1～3週間後に発生する危険がある急性糸球体腎炎や、10～25日後に発生する危険があるリウマチ熱、リウマチ性心疾患があります。必ずしもかかる病気ではありません。リウマチ熱は主に4～17歳で発症し、溶連菌感染を繰り返すことで数十年後にリウマチ性心疾患起こす可能性があります。

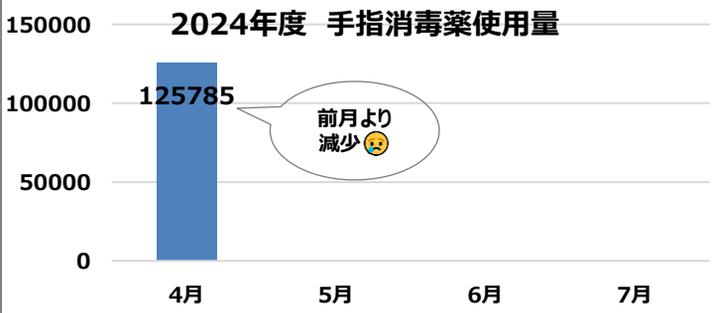
また、猩紅熱は気道感染症だけでなく、全身に発疹を伴うものをいいます。いずれも適切な治療が必要です。

### 溶連菌感染症の治療と感染対策

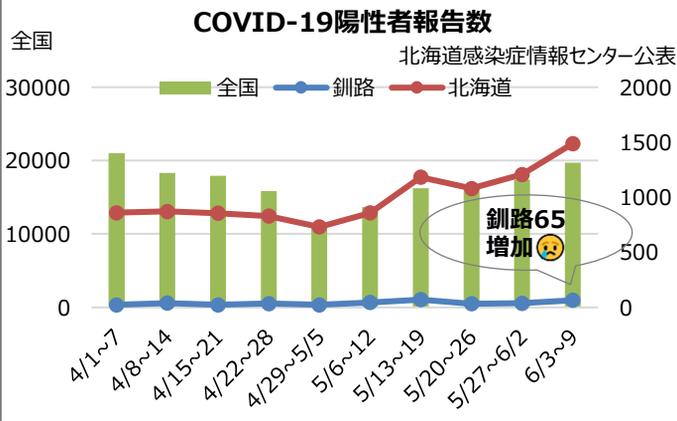
溶連菌感染は飛沫・接触感染対策が重要です。続発症の予防のためにも適切な抗菌薬による治療を受けることで他人への伝播のリスクも軽減します。

治療はペニシリン系の抗菌薬を服用します。**抗菌薬を服用後24時間以内に感染力は無くなる**と言われていいます。また、**抗菌薬は10日間程度服用することが推奨**されています。

感染対策は飛沫感染予防はマスクの着用や、咳エチケット、手洗いや手指消毒が有効です。家庭内感染を防ぐにはタオルやコップなどを共用することは控えましょう。



手指消毒の使用量が前月よりさらに減少しました。手指衛生は感染対策の基本です。適切なタイミングで実施することが大切です。



一度は峠を越えたとも思われたCOVID-19感染ですが、やはり散発的に発生しています。コロナ感染含む院内感染の拡がりを防ぐ意味でも感染対策に十分注意しましょう。

院長先生のコラムです。コロナ増加中、皆さん、院長先生のメッセージをぜひ受け取ってくださいね！

### 新型コロナウイルス感染症対策のお願い

発熱などの有症状時は直接受診することは控え、病院へ連絡してから来院して下さい。当院への受診の際は必ず、マスク着用をお願いします。また、受診時の付き添いの方は1名までとさせていただきます。面会も引き続き原則禁止とさせていただきます。陽性の方は症状悪化した場合等は診断を受けた医療機関へご相談下さい。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。